

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600032		
法人名	医療法人 三幸会		
事業所名	ケアサポートセンター 宝ヶ池 GH		
所在地	〒606-0047 京都市左京区上高野薩田町11-1		
自己評価作成日	平成23年6月	評価結果市町村受理日	平成23年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kai gos ip/infomationPublic.do?JCD=2690600032&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上の口上ル梅湊町83番地1 「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	2011年7月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のなか、できる事をご利用者といっしょに行い、その方の暮らしをサポートする事。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

霊峰比叡山が居室から眺望できるということで契約されるグループホーム宝ヶ池である。ホームの運営推進会議に利用者、家族全員に参加を呼びかけるなど利用者、家族の意向を最も重視する利用者主体がホームの基本である。ホームは開設3年目であるが、開設当初から、ホームと利用者が地域の一員となるため、町内会加入、地域の高齢者の集い「すこやか学級」への支援、利用者によるお地蔵の前掛け作り、地域の祭りや運動会などへの利用者参加、保育園、幼稚園、中学校との交流、災害時での地域連携のためにホームの防火訓練への消防分団の参加などを進め、地域とのなじみの関係を築こうとしているのが特徴である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として、ご利用者の力を重視し、日常的に調理参加や園芸を楽しみ、自分たちで育てた野菜を調理する等続けています。又、開所時からの目標でもあった、自家生のお漬物作り・手作りみそ作りも行えています。	理念の趣旨は利用者の能力維持と発揮で、漬物作り、調理など利用者と職員が一緒に行っている。 開設3年のケア実践を踏まえ、理念を見直そうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の仲間に入れて頂いており、隣接住宅の子供さんも遊びに来てくれている。地区社協の「すこやか学級」のお手伝いや、保育園児と交流等も行っている。	町内会の一員として、毎年お地藏さんの前掛けを利用者が作ったり、敬老会、運動会、八幡宮のまつりなど地域行事への参加が盛んである。学区社協のすこやか学級への支援や保育園、中学校との交流もしている。	地域行事への参加は日常的に行なえているが、ホーム行事への住民参加を促進され、双方向のお付き合いが進むことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括が行う、「認知症サポーター研修」のお手伝い等も実施し、啓発活動として取り組んでいる。今年も、中学校のチャレンジ体験も受け入れを行う事ができ、高齢者との関わりを提供することができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地区社協会長様・担当包括様・本人・家族等で実施。本年も、会議にて地元消防団の防火避難訓練参加も依頼していく。	毎回、家族へ案内し、議事録を配布している。会議では、ホームの状況を話し合い、防災訓練への消防分団の参加、夏祭りの家族によるバイキングなどを実現している。地域住民代表が1名だけの会議構成となっている。	会議の構成メンバーは特定されているが、地域代表が少なく、地域に開かれた運営をめざし、地域関係者のゲスト参加を進め、メンバーを充実することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政区の介護保険事業者連絡会のメンバーとして活動。又、包括等とも連携し、行政区社協へ依頼し、権利擁護等の支援を行う事ができた。	行政担当者には広報紙を配布し、報告、連絡等を日常的に行なうとともに、行政区の介護保険事業者連絡会で情報交換を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の研修として、毎年取り組み、職員へも伝えている。開所以来、身体拘束は行っていない。又、建物の施錠も、夜間の戸締りのみである。	建物の施錠は夜間のみで、身体拘束防止のマニュアルを策定し、毎年、研修を行ない、職員に周知している。エレベーターの開閉が暗証番号方式で施錠状態となっている。	エレベーターの施錠は利用者の移動・行動の自由を拘束することになるので、改善されることを期待する。

京都府 グループホーム ケアサポートセンター宝ヶ池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の研修として、毎年取り組み、職員へも伝えている。外部研修にも参加。スキルを高め、早期発見等に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内法令遵守室による研修を引き続き実施。外部研修にも参加し、事業所内で伝達研修も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約に対しては、小規模・GH事業所とも、時間をかけ、ご理解ができるよう、心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(GH) ケアのなかで意向確認等モニタリング等随時実施。家族にも、面会時やお電話等で意向確認を重視している。ご苦情等は、報告書を掲示する等実施。	苦情受付の掲示はしているが、意見箱は設置されていない。意見表明の機会は運営推進会議、ホームの行事の時等である。意見は少ないが、個別外出や夏祭りの手作りバイキングなどは要望により実施されている。	意見を表明できる機会を増やすため、意見箱の設置、アンケート、利用懇談会、家族参加型行事の企画など多様な機会を設ける工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議に、多くの職員を参加、具体的な取り組みになるようしている。又、職員を3グループ分けし、各リーダーが、意見や意向の集約を行い、より全員参加が行えるようにしています。	職員が意見表明できる機会を増やすため、職員会議だけでなく、全職員参加によるグループ会議、個別面談が実施され、研修、広報、食事など職員企画により行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本体で取り組み、必要に応じた変更を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、適材適所に参加を実施。、事業所独自のマニュアルも活用し、事業の運営がぶれないように活動できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政区事業者連絡会・すこやか学級・GH協議会等へ、引き続き多くの職員を参加させ、交流や意見交換を行うように指導し、適切な繁栄が可能となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(GH) 利用前情報・面接等から、意向確認に、多くの時間をかけ、アセスメント・初期プランへとつなげていく。本人・家族の意向確認をしたうえで、職員間でのカンファを行い、適切なケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	15項目対応に準ずる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	15項目対応に準ずる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小規模・GHとも、調理をいっしょに楽しむ、お互いの行為に対して、お互いが感謝する状態が、日常となり、ありがたい限りである。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	子育てのご苦労のお話や、買い物に同行し、旬の野菜の選び方を教わる等、日常的にみられている。お話の内容を、お手紙やノート、送迎時や電話でも伝え、一緒に支援していく基本としています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(GH) 職員や利用者とのなじみ関係構築を大切に、生活のなかで、役割を持って頂き、GH全体がなごやかな関係となるよう努める等、継続した対応を行っています。	利用者の趣味、なじみの関係を含む生活歴を把握し、カフェ好きな利用者に月2回喫茶店に行く、能と関係していた方のため、能面作品会見学など利用者のなじみの関係の維持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(GH) 職員が中に入ることで、仲の良い方同士のおしゃべりが日常になっている。日々の暮らしの中で、認知レベル軽度の方が、進行している方への心配り等変わらずみられている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(GH) 利用は、京都市在住であり、ご家族も日常的に良く面会に来られます。ご家族から、新しい情報を頂くことも多くあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本、管理者と職員が訪問面接し、情報収集・アセスメントを行い、意向をプランに反映させている。又、関わりを持つ事で、趣味・嗜好等が把握できる事もあり、情報は事業所全体として共有できるよう、対応に努めています。	利用時に管理者、職員が面接し、意向を把握し、プランに反映させている。プラン見直し時にも利用者、家族にヒアリングを行ない、意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(GH) 利用前情報・面接等から、生活歴の把握・意向確認等し、情報としてアセスメント(MDS・センター方式)入力、初期プランへとつなげていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(GH) 利用前情報・面接等、生活歴の把握・意向確認等し、モニタリングに努めている。プラン見直し等、3ヵ月毎に実施し、タイムリーな支援を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(GH) 本人・家族との話し合いや、職員間でのカンファを行い、利用開始時の暫定プラン作成しケアを行っている。プラン見直し等、3ヵ月毎に実施し、タイムリーな支援を心がけている。	介護計画は、本人・家族の意見を聞き、計画と計画実践表、介護記録をもとに職員間でカンファレンスを行い、担当職員(複数)と計画担当者で計画を作成し、3ヶ月毎の見直しを含め、家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(GH) 法人GHの記録様式を統一化しており、体調その他の情報の共有を第1とし、計画作成担当が中心となり、随時カンファ・アセスメント実施し、支援にあたっている。		

京都府 グループホーム ケアサポートセンター宝ヶ池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活に応じて、必要な支援が日々発生しますが、まず、ケアの中で、職員がタイムリーな意向把握に努めています。その中で、買い物・受診・外出等実施可能なケアや支援は、早期に実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会等近隣へ関わりや、職員が近隣に多く住み、より多くの情報や行事等の集約が行えている。可能な範囲での、行事参加等も支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に対して、事業所での体調等、必要な情報提供は、日常的に実施。受診は、家族対応を基本とし、随時管理者等も同行している。又、要望により、必要時医師の紹介も行なっています。	主治医は継続受診を基本とし、現在、週1回の往診と定期的な通院をしてもらっている。サマリー交換も行ない、適切な受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模で非常勤でナースがおり、GHと合わせて健康管理・介護職への看護指導を行っている。GHの訪看との連携も随時行い、利用者への医療連携が途切れないように、心がけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事業所での体調等、必要な情報提供や、入院後も、相談員等と連携し、早期のサービス再開や、その他の方向性検討等支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人として、重度化やターミナルに向けた方針が明文化されており、本人家族への意向確認も徐々に行っている。昨年より、研修実施や新たなマニュアル作成等も行っている。	看取りの経験はないが、重度化対応・終末期ケア対応指針が策定されており、職員研修も行なわれ、意向による看取り対応実施への準備は整っているため、本人・家族との話し合いが課題である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修参加や、消防署に依頼し、事業所内で救命講習も実施。平成22年8月よりAEDも設置され、非常時の対応方法が増えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害時の対応マニュアルがあり、非常時の対応指針となる。又、防火消防訓練は、年2回実施。地震・風水害の対応もマニュアル化してある。	災害マニュアルを策定し、夜間想定を含む消防訓練も年2回行なわれている。学区の消防分団も参加している。また、消防設備の点検も行ない、災害備蓄も1週間分用意されている。	防火訓練のみならず、地震対応訓練の実施や災害時の地域の助け合いを築くため、地域の災害訓練への参加及び災害協定の検討をすることが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	小規模では承諾を得て、行事の写真等フロアに掲示、GHは個の住まいとして、各部屋で掲示している。又、排泄等は、自尊心を考慮した声かけをする事も普通科できており、利用者も安心されている。	個人情報基本指針の掲示を行ない、毎年、個人情報・プライバシー研修を実施。会話では利用者目線と傾聴を基本としている。例えば、居室は鍵が掛けられるなど、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小規模・GHともご利用者の意向で、おしゃれや調理をいっしょに楽しむ等の支援を実施。又、お互いの行為に対して、「ありがとう」と、感謝する状態が常にみられており、ありがたいです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	37項に準ずる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	37項に準ずる。引き続き、ご家族等に協力してもらい、季節の衣類等も、随時ご用意してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員がメニューから作り、利用者と一緒に買い出し、日常的に調理参加されている。今年も園芸を楽しみ、自分たちで育てた野菜を調理し、自家生のおみそ・お漬け物作りも行え、共に喜んでいきます。	利用者の希望を聞き、メニューを作り、食材の注文に利用者と共にいき、菜園で利用者がつくった野菜を利用者と職員が調理、又、自家製味噌などもつくり、「利用者と共に」をモットーに手作り食事を楽しんでいられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当に調理師がおり、法人の栄養士とも連携し、カロリー等の対応が出来る。2事業所とも、水分摂取の把握には、特に気をつけており、水分摂取表の随時変更活用も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2事業所とも、起床・屋食後・就寝前の口腔ケアは、全員実施。		

京都府 グループホーム ケアサポートセンター宝ヶ池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で随時カンファし、かかりつけ医の判断、本人・ご家族の意向を確認して、適切な排泄ケアに努めています。	排泄パターンを把握し、声かけによるトイレ排泄に心がけている。夜間も利用者の覚醒時に排泄支援をしている。オムツ等の使用は主治医と協議し、意向を確認して行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量や、食事内容の工夫等を行っている。かかりつけ医との連携で、お薬による排便コントロールも、引き続き行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在も、時間をかけお風呂を楽しんで頂くよう努めています。夜間浴に関しては、実施はできていない。	昼間ならいつでも入浴できるようにしている。温泉入浴剤も活用し入浴を楽しむ工夫もしている。個浴で、お湯の入れ替えも一人一人に行ない、同姓介助を基本としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(GH) 利用者それぞれが、昼食後の休息をかねた昼寝を行われる等されている。夜間、途中覚醒した方にも、傾聴等で対応し、安眠できるよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	小規模勤務ナースが、2事業所利用者の薬状をまとめ、変更等もケアワーカーがお薬リスト作成に関わり、情報の共有・連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・園芸・散歩・作品作り等、多くの事を利用者といっしょに楽しんでいる状態を継続できています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買物同行等は、季節や天候等良ければ、ほぼ毎日実施。個別の外出も、プランニングし、予定を立て実施しており、大変喜ばれています。	散歩、買い物など1日1回は外気に触れることを基本に外出支援をしている。個別外出支援(喫茶店、焼肉、祇園祭鉾見学など)も行ない、外出行事(花見、新緑ドライブ、五山送り火、紅葉、初詣など)も実施している。	

京都府 グループホーム ケアサポートセンター宝ヶ池

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(GH) 預かり金は、管理者が管理し、出納は複数で確認。お金を自己管理されている方もおられる。事業所の買い物に同行もされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(GH) 利用者が、家族に電話を希望された場合、支援している。携帯電話を所持されている方もおられ、お部屋で使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	法人全体として、照明の光の色調や、内装には、一定の和の空間を表現するインテリアを取り入れている。飾り付けも、季節館や記憶の想起を促すような試みとしている。常に、清潔な環境も心がけている。	玄関前には晴れた日にくつろげるよう椅子が4脚置かれ、ドアには風鈴がある。居間兼食堂は広くはないが、和風で壁は中間色で落ち着いた感じがする。七夕飾り、季節の生け花などが飾られ、季節を感じる空間を演出している。空調も適切で、昼食時TVを消すなどの配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・椅子の配置等、ご利用者の意見を取り入れ、創意工夫しています。手作りの椅子カバーや、お好みの座布団や、布製品等で、個別の空間も演出するよう心掛けて		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋に関しては、ご家族や職員間の協力や、家具の用意や飾り付け等を行っています。でいるだけ、自然な飾りつけとなるよう配慮を行っています。	居室はエアコン以外はない家具などすべて持込である。部屋には自分で生けた花が飾られ、好きな歌手の写真が貼られるなど利用者自身による住空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々変化する、高齢者のADLを大切にしている。環境に関しては、バリアフリー・高齢者仕様の設備等、自然な演出を心がけています。移動・起居動作への補助として、椅子を補助の手すり代わりに置く等、こころがけています。		